

R3年農事メモ(第5号)

令和3年7月1日
白山石川営農推進協議会
石川県農業共済組合
松任市農業協同組合

白山石川グレードアップ米づくり運動実施中!

今回のポイント!

チェック
□ 中干し後から出穂までは、約1ヶ月間の飽水管理

チェック
□ 出穂から刈取り直前までは、

① 乾かさない ② ずっと溜めない ③ すぐ落とさない

チェック
□ 水稻の生育ステージにあわせた適期防除の実施

水稻の生育状況 (6月28日時点)

ゆめみづほの草丈は平年より長く、茎数は平年並になっています。
コシヒカリは草丈・茎数ともに平年並になっています。
出穂時期は、ゆめみづほと五百万石で7月18~20日頃の見込みです。
ゆめみづほは、幼穂形成期に入っており、中干しを終了し、間断通水に切り替えましょう。
5月上旬に植えたコシヒカリは、7月5日を目途に中干しを終了し、間断通水に切り替えましょう。

【出穂期の見込み(5月連休までの田植え、6月28日調査)】

品 種 名	主稈幼穂形成期 (出穂25日前)	減数分裂期 (出穂15~5日前)	出 穂 期
ゆめみづほ	6月24日頃	7月4~14日頃	7月19日前後
コシヒカリ	7月6日頃	7月16~26日頃	7月31日前後

追肥や防除実施の基準になります

病虫害防除は適期を逃さず実施!

病虫害発生予報第3号(6/17発表) 病虫害防除室

いもち病:並 発病が認められたら直ちに防除しましょう!

紋枯病:並 前年発生ほ場や茎数の多いほ場で多発する可能性があります。 **特に注意**

斑点米カメムシ類:やや多 7月上旬仕上げ除草と適期防除の徹底で斑点米を減らしましょう。 **特に注意**

6・7・8月は農薬危害防止運動期間です。農薬を安全で適正に使用し、随時保管管理を徹底することは、農業生産の安定だけでなく、生産者の健康や生活環境の保全の観点からも重要です。

当面の栽培管理

1 病虫害防除(基幹防除)

(1) ゆめみづほ(出穂7/16前後)

体系	散布時期	対象病虫害	薬 剤 名	使用量 10a 当たり	散布時期の目 安	本剤の 使用回数	注 意 事 項
微粒剤 防除 ※1	1回目	いもち病、カメムシ類、紋枯病、 ウンカ類、ツマグロヨコバイ	サジェスト微粒剤F	3 ~ 4 kg	7月21 ~25日	3回以内	使用時期: 収穫21日前まで
	2回目	いもち病、カメムシ類 ウンカ類、ツマグロヨコバイ	ビームスター微粒剤F	3 ~ 4 kg	7月28日 ~8月1日	3回以内	使用時期: 収穫7日前まで
粒剤 防除 ※2	1回目	いもち病、カメムシ類 紋枯病、ウンカ類 他	イモチエース キラップ粒剤	3 kg	7月7 ~11日	1回	使用時期: 収穫35日前まで
	2回目	カメムシ類、ウンカ類 ツマグロヨコバイ	スタークル粒剤 スタークル豆つぶ	3 kg 250 g	7月21 ~25日	3回以内	使用時期: 収穫7日前まで
液剤 防除	1回目	いもち病、カメムシ類 紋枯病	①ビームエイトレボソル + ②モンセレンフロアブル	水100Lに対し ①154ml(650倍) ②66ml(1500倍)	7月21 ~25日	①3回以内 ②4回以内	使用時期: ①収穫14日前まで ②収穫21日前まで
	2回目	いもち病、カメムシ類 ウンカ類、ツマグロヨコバイ	ビームエイト スタークルゾル	60~150L (1000倍)	7月28日 ~8月1日	3回以内	使用時期: 収穫7日前まで

(2) コシヒカリ(出穂7/31前後)

体系	散布時期	対象病虫害	薬 剤 名	使用量 10a 当たり	散布時期の 目安	本剤の 使用回数	注 意 事 項
微粒剤 防除 ※1	1回目	いもち病、カメムシ類、紋枯病、 ウンカ類、ツマグロヨコバイ	サジェスト微粒剤F	3 ~ 4 kg	7月29日 ~8月2日	3回以内	使用時期: 収穫21日前まで
	2回目	いもち病、カメムシ類 ウンカ類、ツマグロヨコバイ	ビームスター微粒剤F	3 ~ 4 kg	8月5~ 10日	3回以内	使用時期: 収穫7日前まで
粒剤 防除 ※2	1回目	いもち病、カメムシ類 紋枯病、ウンカ類 他	イモチエース キラップ粒剤	3 kg	7月22~ 26日	1回	使用時期: 収穫35日前まで
	2回目	カメムシ類、ウンカ類 ツマグロヨコバイ	スタークル粒剤 スタークル豆つぶ	3 kg 250 g	8月5~ 10日	3回以内	使用時期: 収穫7日前まで
液剤 防除	1回目	いもち病、カメムシ類 紋枯病	①ビームエイトレボソル + ②モンセレンフロアブル	水100Lに対し ①154ml(650倍) ②66ml(1500倍)	7月29日 ~8月2日	①3回以内 ②4回以内	使用時期: ①収穫14日前まで ②収穫21日前まで
	2回目	いもち病、カメムシ類 ウンカ類、ツマグロヨコバイ	ビームエイト スタークルゾル	60~150L (1000倍)	8月5~ 10日	3回以内	使用時期: 収穫7日前まで

※1 微粒剤散布には専用のホースが必要です。田面に水を張る必要はありません。

※2 粒剤は、1回目の散布では水深3~5cm程度で散布7日間は湛水状態を保つ。

2回目の散布では水深3cm程度で散布4~5日間は湛水状態を保つ

2 病虫害防除(随時防除)

常発地や昨年発生が見られた地域は田まわりを徹底しましょう。

○稲こうじ病 ※穂ばらみから出穂にかけて雨がが多く、低温・日照不足で発生が多くなる。

薬 剤 名	使用量 10a 当たり	使用適期	本剤の 使用回数	注 意 事 項
モンガリット粒剤	3~4 kg	出穂2~ 3週間前	2回以内	水深3cm程度で散布4~5日間は湛水を保つ。
Zポレド粉剤DL	3~4 kg	出穂10日前	-	穂に付着すると薬害を生じるので、必ず出穂10日前までに散布する。

※紋枯病について

-常発地やすでに発生しているほ場は、

出穂10日前までにモンガリット粒剤を3~4kg/10aを散布しましょう。

3 肥培管理

コシヒカリの穂肥 ※幼穂長を確認し稲の姿に応じた的確に施用すること。

◎施用基準（分施体系）

「BB有機入松任穂波」

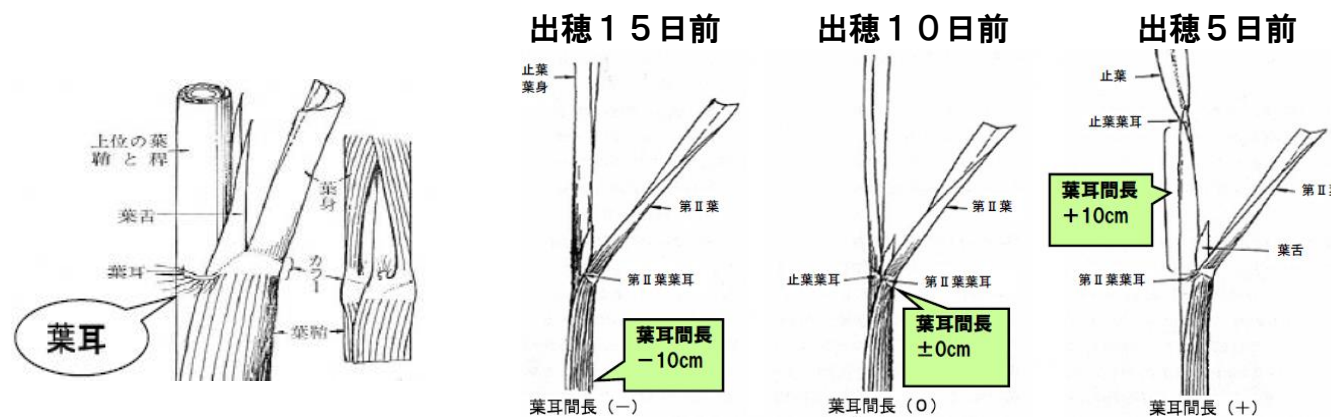
施用時期 (幼穂長)	時期の目安	施用量(kg/10a)	葉色
出穂18日前 (10~15mm)	7月12~14日	30	3.5

- ・葉色が基準程度で葉身は直立・・・基準どおり施用。
- ・葉色がやや濃い葉身は直立・・・基準より5日遅らせる。
- ・葉色が濃く葉身の乱れが目立つ・・・基準より（1回目を）5日遅らせ、2割減肥。

🔔 **ここにも注意を** 《生育に応じた今後の対応方針》

	生育が早い、生育旺盛な場合	生育が遅い、生育不足な場合
幼穂形成期	草丈が長く葉色濃い場合は、穂肥を遅らせ減肥する。	生育が遅れているため、穂肥や基幹防除が早めとならないよう注意する。

◎葉耳間長による出穂前日数の推定方法



4 中干し終了後の水管理 ~ 飽水管理の徹底 ~

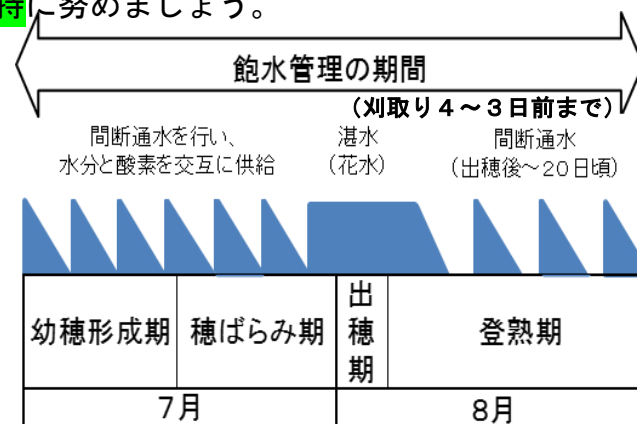
- 中干し終了後は**間断通水**を実施し、**徐々に飽水管理へ移行**しましょう。
急激な湛水は、根の酸素不足による根腐れや下位葉の枯れ上りを生じさせるので、行わないでください。
- 出穂前後は花水として、湛水しましょう。ただし溜めっぱなしを避け、水の入れ替えに努める。
- 飽水管理は登熟の後期まで実施し、稲体の活力維持**に努めましょう。

🔔 **ここにも注意を**

※減数分裂期（前ページ参照）に低温(17℃以下)が予想される場合、深水にし、幼穂を守りましょう。

※登熟期に高温が続く場合は、夜間通水を行い地温を下げるように努めましょう。

※強風やフェーンが予想される場合、あらかじめ十分に入水し、高温障害の発生を防止！



5 倒伏軽減剤

薬剤名	使用量 10a 当たり	使用適期	本剤の 使用回数	注意事項
スマレクト粒剤	2~3kg	出穂15~10日前	1回	湛水状態で播きムラのないように均一に散布し、散布後5日間は湛水状態を保つ。散布後7日間は強制的に落水しない。
ビビフル粉剤DL	3~4kg	出穂10~5日前	1回	播きムラや重複散布に気をつける。降雨直後や降雨が予想される場合は散布しない。

「ゆめみづほ」上乗せ追肥について

○出穂前の葉色が淡い場合（葉色5未満）は、基肥一発肥料であっても出穂7日前頃に追加穂肥を施用し、高温登熟による白未熟粒発生を防ぎましょう。

「BB有機入松任穂波」7~8kg/10aを

7月10~13日(出穂7日前)を目安に施用

※ただし基肥一発に「早生一発くんDX28」を施用した場合は、上乗せ追肥は不要です！



この時期の追肥は、増収効果も期待できます！

**基肥一発肥料プラス上乗せ追肥で
ゆめみづほのさらなる増収をねらいましょう！**

※昨年までの経過(秋落ち、大豆跡による基肥減肥など)や今後の登熟期間の気象を踏まえて、実施を判断する。

向こう1か月の天候の見通し（北陸地方）

（6月26日~7月25日）

（参考）新潟地方気象台の情報

平均気温（1か月）	降水量（1か月）	日照時間（1か月）
平年並か高い見込み	平年並みか多い見込み	平年並みか少ない見込み

- 7月以降は平年に比べ気温が高く、降水量は平年並の予報となっています。
- 作業の段取り等はゆとりをもって進めるようにしましょう。